

## 50周年を迎えて



山梨県テニス協会

理事長 小林 繁

「積み重ね つみかさねても つみかさね」

この言葉は、東京タワーの設計者で知られている山梨県南アルプス市出身の建築家内藤多仲氏の言葉です。

山梨県テニス協会は、この言葉のごとく、1年1年の地道な積み重ねを得て平成28年5月をもって創立50周年を迎えることが出来ました。ここに至るには、内藤氏の言葉の奥に隠された数々の艱難辛苦と同様に、多くの困難や試練があったことと思います。しかし、それを乗り越え今日が迎えられたのは、歴代会長をはじめとして創世記の諸先輩の方々の御苦勞があり、また、それを引き継ぎ諸分野で工夫尽力を重ねてくださった役員のみなさまがいたからこそです。また、大会へ参加して楽しんでくださった会員のみなさま、さらに、山梨県及び山梨県教育委員会、山梨県体育協会、高体連、小中体連、女子テニス連盟等をはじめとする各種関係機関、競技団体のみなさまのお蔭でもあります。節目を迎えるに当たり深く感謝と御礼を申し上げる次第です。

さて、テニス界は歴史を変え続けている錦織圭選手の出現により、日々新しいページが書き進められています。私は近々彼が起こす驚愕する出来事の歴史の証人になれることを信じ、ワクワクと待っているところです。本県でも、平成26年度の長崎国体において、かいじ国体の総合優勝以来の好成績になる女子団体初優勝、皇后杯初獲得という快挙も手に入れることができました。重ねて喜ばしいところです。

しかし、近年の若者のスポーツ離れ同様、テニス界も大会参加者が激減しています。この節目を迎えるに当たり、私たちは、この状況打開のため一層の努力を惜しまず積み重ね続ける団体として、県民のみなさんに喜びの機会を提供し続けたいと考えています。

テニスは、いつでもどこでもだれとでも簡易にできる、楽しくもあり体力向上にも役立つライフスポーツです。また、求めれば自分の究極まで技術力・精神力を磨き上げるのにも魅力的な競技スポーツでもあります。それぞれのみなさんが、各自の目的に向かってそれぞれの階段を登ってくれることを協会はサポートしたいと思います。

スポーツを構成する3要素、「する人」「見る人」「支える人」。テニスと出会った人は、この要素を、「楽しみな趣味として」「自分磨きの試練の場として」「豊かな人間関係づくりのツール」として生かしてほしいと思っています。

テニス協会は「積み重ね つみかさねても つみかさね」続けます。